

答 辞

寒さも和らぎ、心地よい日差しが暖かな春を予感させる季節となりました。

本日は、私たち卒業生のためにこのよ
うな式典を挙行していただき、誠にあり
がとうございます。西田学長をはじめ、
ご臨席いただいた皆様に、卒業生一同、
心より感謝申し上げます。

今、この場に立って振り返ると、大学
生活が本当にあっという間に過ぎ去っ
てしまったのだということを実感しま
す。入学したての頃、講義が行われる場
所が分からずに慌てていたことなど
つい先日のことのようです。全てが新し
くなった環境で出会った先生方や友人

たちと過ごした時間はかけがえのないものであり、これから飛び立つ私たちの行く先を、より明るく照らしてくれることとでしよう。

学生生活では、多くの知識と経験を得ることができました。私の所属した理学部では、教科書を読み解いていく座学と並行して、たくさんの実験が行われました。百聞は一見に如かずということわざがあります。がまさにその通りで、実際に実験をしてみても、水中にわずかに含まれる物質を測定する、という実験で、大量の地下水をろ過したことは印象深い体験でした。それは、水をろ過して固形物を集めるといふ単純な作業だったのですが、何十リットルもの水をろ

過するにあたり、目詰まりが起こらないように初めは上澄みだけを注ぐようにするなど、作業時間を短縮する努力が必要でした。

これまでの私は、実験というのはただ決まりきった手順に沿って動くだけの、いわば誰にでもできるものなのではないか、というような疑いをどこかで抱いていました。しかし、実際には単純な作業一つとっても、効率や正確性を高めるために様々な工夫が求められるものであり、これは一朝一夕で身に着けられるものではないのだと理解することができました。

このような経験は、私自身の未熟さを浮き彫りにしましたが、その中での数々

の気づきが再び前進する原動力となり、今、私をこの場に立たせています。当然、この成長は私一人の努力で達成できるものではなく、熱心にご指導くださる先生方と、ともに悩み、ともに学ぶ仲間があったからこそのものでした。同期の皆も、学生生活の中で形は違えど様々な壁にぶつかってきたことと思います。しかし、だからこそそれを乗り越えて成長し、これから進んでいくそれぞれの道に向けて、力強い一步を踏み出すことができるのでしよう。

最後になりますが、このような充実した大学生活を支えていただいた大学職員、関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。また、臨席は叶いませんでしたが、いつでも私たちの身を案じ、成長を

見守り続けてくれた家族にも心から感謝の意を表します。そして、我らが琉球大学の発展と、ご出席いただいた皆様の更なる活躍を祈念いたしました皆様とさせていただきます。

令和四年三月十八日

卒業生代表

理学部 海洋自然科学科

島袋 淳也